

説 教

聖日礼拝 北浜チャーチ
黒田 禎一郎

2019年5月12日（日）

主 題：「上からの知恵で生きなさい」

—平和をつくる人—

テキスト：ヤコブの手紙3章17-18節

はじめに

- ・先日、自動車学校へ「高齢者講習」を受けに行きました。
最近、高齢者ドライバーによる交通事故が多くなり、社会問題となっています。「高齢者講習」は交通規則の学習と実技があり、2時間たっぷり、自動車学校の生徒となりました。
- ・私が「高齢者講習」を受ける直前、東京・池袋で87歳の男性の運転する車が暴走し、横断歩道を渡っていた母親（31歳）と娘さん（3歳）が死亡しました。他10人が重軽傷を負いました。赤信号を無視して、時速100km近くのスピードで横断歩道に突っ込んだとみられます（drive recorder）。残された被害者家族の人生は、一変しました。
- ・加害者は「アクセルペダルが戻らなかった」と、警察官に説明しました。
つまり、運転者は車を「制御」できなくなったということです。運転者が車を制御できないことは、正に致命的な事故につながりました。本当に恐ろしいことです。
- ・ところで、ヤコブは次のように言いました。

3:8 しかし、舌を制御することは、だれにもできません。それは少しもじつとしていない悪であり、死の毒に満ちています。

舌（言葉）は制御できない悪であり、それは偽りの知恵を生み出す源です。ヤコブはその偽りの知恵について、前回の箇所で解説しました。今日の箇所は、まことの知恵（天からの知恵）について解説しています。まことの知恵とは、制御された舌が生み出すものです。2点

大切なポイント

1. まことの知恵に生きる人

1) まことのしるし

- ・ヤコブは、まことの知恵のしるしとして、7つの特質を列挙しました。
① 「純心」です。「**しかし、上からの知恵は、第一に純真であり・・・**」、

この純心という言葉が最初に出てくることは、最も大切な特質であるからです。純心とは、「清い」、「汚れがない」、「この世の知恵で汚されていない」という意味です。これは心の中の状態を指す言葉です。これ以降の6つの特質は、すべて外側に現れるものです。

- そして②「平和」、③「寛容」、④「温順」（聞く耳を持ち、教えられやすい心の状態）、⑤「あわれみと良い実とに満ち」、⑥「えこひいきがなく、みせかけのないものです。」と続きます。
- 第一ヨハネ3章には次のように書かれています。

3:3 キリストに対するこの望みをいただく者はみな、キリストが清くあられるように、自分を清くします。

- これは「純心」を別の言葉で定義したものであります。純心は神の前で清いことを指します。神は純心で清いお方ですから、ここに神が祝福される奥義があります。

2) まことの知恵がもたらす結果

3:18 義の実を結ばせる種は、平和をつくる人によって平和のうちに蒔かれます。

- ここで私たちが覚えない点は、偽りの知恵がもたらす結果と、真の知恵がもたらす結果の違いです。永続性のある実とは、神から与えられた知恵を持っている人によってしか達成されません。
- 私たちはどのような結果によって、結果を残そうとしているのでしょうか。この世の知恵によって得られる成果は、長続きしません。またこの世の知恵によって行動している人は、必ず挫折し、崩壊します。しかし、まことの知恵（天からの知恵）には力があります。そして平和をもたらす結果へ導きます。まことの知恵に生きる人は幸いです。
- では、まことの知恵はどのようなものでしょうか。

2. 平和をつくる人

1) 平和をつくる人

- イエスはマタイ福音書で、「**平和をつくる者は幸いです。その人は神の子どもと呼ばれるからです。**」(5:9)と言われました。平和をつくる人、英語では“Peace Maker”（ピースメーカー）です。「あの人がいると平和だ」という人になれば本当に素晴らしいと思います。家庭、職場、どんな所でも「あの人がいるから安心だ」という言われる人です。逆に、「あの人がいるといつも問題が起こる」と言われる人がいます。“Trouble Make”（トラブルメーカー）です。世の中には、ピースメーカーと、トラブルメーカーがい

ます。

- ・しかし皆さん。トラブルメーカーにも2種類あります。たとえば、パウロは次のように言われました。

この男は、まるでペストのような存在で、世界中のユダヤ人の間に騒ぎを起こしている者であり、ナザレ人という一派の首領でございます。

使徒の働き24:5

- ・ペストは黒死病と呼ばれ、ペスト菌によっては発生する急性伝染病です。動物から人間に伝染し、皮膚、粘膜を通して感染します。潜伏期間は1～7日。突然、悪寒が覚え高熱、頭痛、倦怠感、めまいが来ます。皮膚は乾燥し紫黒色となり、死亡率が非常に高いものです。パウロはペストのような存在と言われました(今の時代、別の言い方の方がピンとくるかも知れません)。もし、そう言われたら、どうでしょうか。
- ・イエスは次のように言われました。

わたしが来たのは地に平和をもたらすためだと思っはなりません。

わたしは、平和をもたらすために来たのではなく、剣をもたらすために来たのです。

マタイ10:34

- ・このように、ほんとうに問題を起こす人と、神の人がトラブルメーカーになることがあります。同じトラブルメーカーと言っても、まったく違います。世の中には、自分のために、自分のわがままを通すためにトラブルを起こす人がいます。そして、義のためにトラブルを起こす人もいます。ですから、義のためのトラブルメーカーは、神の目にはピースメーカーとなります。その人は、「平和をつくる人」です。
- ・ヤコブは、試練や苦難があっても、義の実を結ばせるために「平和をつくる人」であるようにと勧めました。その人こそ、義の実を結ばせる人です。平和をつくる人は、平和のうちに種を蒔きます。

2) 平和のうちに種を蒔く

3:18 義の実を結ばせる種は、平和をつくる人によって平和のうちに蒔かれます。

- ① ここに「平和のうちに」、という大切な言葉が出ています。私たちは義のために立ち上がり、平和をつくる人になろうと使命感を持って行っているとしても、覚えなければならないことがあります。それは既に学んだように、「肉」の願いではなく、自分自身が平和な心の持ち主となっているかです。
- ・私は不義を許せない、平和のために戦うのだと言って立ち上がっても、自分の心の中で平和がないままで行っていたら、どうでしょうか・・・。

- 私たちは聖霊に心を照らされ、神の前に謙虚になる時、どんな心でしているかは、自分が一番はっきりと分かります。イエスは言われました。
わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。
ヨハネ14:27
- イエスは平安を残し、また与えると言われました。感謝です。
イエスが与えてくださった平安のうちに、平和な心で立ち上がるのです。皆さん。していることはいくら正しくても、もし神の平安を受けずに行うならば、それは神が喜ばれることではありません。
- 平和のためにと言いながら、じつは自分の満足のために、自分の名前が売れるためにやっているならば、意味がありません。あるいは、自分のやりたいことをやっているに過ぎないとしたら、それは間違っています。平和のうちに、義のために平和をつくる者として、ある時はトラブルメーカーになるかも知れませんが、それが真の平和、神の義のためなら、キリスト者として歩むべき道です。その人はピースメーカーとなるのです。
- いかがでしょうか。私たちはそういう意味で、トラブルメーカーでしょうか。そういう意味で、ピースメーカーでしょうか。

② 「種を蒔く人」

- ヤコブは言いました。

3:18 義の実を結ばせる種は、平和をつくる人によって平和のうちに蒔かれます。

農夫とは、忍耐をもって種を蒔き続ける人です。そうすると、神は愛を持って刈り取ってくださいます。私たちは今の時代も、義の実を結ばせる種を蒔き続けなければなりません。風や嵐のうちで、種を蒔くではありません。平和のうちに、種を蒔くのです。その平和はイエスが与えてくださる平和です。

- 私たちの周りには、家族がまだクリスチャンではない方もいます。それで教会に行く時、家族とトラブルになることがあるかも知れませんが、ある時は、自分が爆発してしまい、置かれた状況に不従順で、不満が口から出るかも知れません。
- しかし、平和な心で、祈りと愛をもって、神を仰いでいただきたいのです。主に助けをいただきながら、歩んでいただきたいのです。平和な心でそのトラブルを乗り越えていただきたいのです。そのためには、自分がどうあるのが、一番いいのかを祈り求めてください。イエスの平安を得ているかどうかです。
- 私たちはトラブルメーカーでしょうか。聖なるトラブルメーカーでしょうか。
「沈黙は最大の宝である」と言って、黙っていれば何とかかなると思っ

いでしょうか。それではいけません。なぜなら、私たちの置かれた職場、学校は不義でいっぱいであるからです。イエスの愛をいただきながら、みことばの種を蒔くことです。

- まことの平和は、イエスにあって実現します。その人は「平和をつくる人」(ピースメーカー)と呼ばれます。「平和をつくる人」とは、イエスの平安をいただき、みことばの種を蒔く人のことです。その種は義の実を結びます。

3) 義の実を結ばせる

3:18 義の実を結ばせる種は、平和をつくる人によって平和のうちに蒔かれます。

- 義の実とは、何でしょうか。義とは神の本性の一つである正義のことで、その義は人間に助け与えるものです。つまり、義の実を結ばせる種とは、人間を祝福する種(神のみことば)です。
- では、なんのために義の実を結ばせるのでしょうか。それは、この世が不義で満ちているからです。私たちが働いている職場や、置かれている社会には多くの不義があります。そこで神の義(人の義ではなく、神の義です)が実現することが、神の願いです。本当の平和にはなりません。
- イエスは、平和をつくる人を次のように言われました。

あなたがたは、地の塩です。マタイ5:13

あなたがたは、世界の光です。マタイ15:14

塩の働きのひとつは腐敗を防ぎます。光の働きのひとつは暗闇を照らします。それらはまさしく義の実であります。神のみことばは、義の実をもたらすものです。

- 神を信じる人が、地の塩、世界の光であるならば、否応なしに不義との対決は起ります。これはトラブルにならざるを得ません。イエスは十字架にかけられるまで、いのちをかけて、地上に真の平和を実現しようとしてしました(神の国の実現)。イエスの来世目的は、「神の国の実現」でした。不義の世界で、剣を投じないわけにはいきませんでした。
- パウロも命をかけてキリストの福音を宣べ伝えました。平和をつくる人によって、平和のうちに義の実を結ぶ種が蒔かれました。結果、パウロによってどれほどの人々がイエスをキリスト(救い主)と信じ救われ、神の祝福を受けたことでしょうか。また、どれほど多数のキリスト教会が誕生したことでしょうか。すべて、平和をつくる人によって、平和のうちに義の実を結ぶ種が蒔かれた結果でした。

- 皆さん。種を蒔く仕事は重労働です。しかし、平安(喜び、感謝)を持って種

を蒔くならば、苦痛とはなりません。イエスは私たちにその平安を与えてくださいます。なんとという幸いでしょうか。

- ・イエスは復活後、ガリラヤ湖畔に姿を現されました。あの疑い深かったトマスに現れ、なんと言われたのでしょうか。「平安がありますように」(Peace be with you) 彼もその後、平和をつくる人となり、平和のうちに義の実を結ぶ種を蒔いた人となりました。彼の人生は大きく変えられました。私たちがイエスにあって、平和をつくる人と変えられるのです。なんとという幸いではありませんか。聖書は、その幸いを「恵み」と呼んでいます。感謝です。

ま と め

主 題：「上からの知恵で生きなさい」

—平和をつくる人—

3:18 義の実を結ばせる種は、平和をつくる人によって平和のうちに蒔かれます。

- ・今日、私たちは神が与えてくださる祝福について学びました。祝福は「偽りの知恵」からではなく、「上からの知恵」から与えられます。それは平和をつくる人によって、平和のうちに蒔かれるのです。
- ・私たちはどのように祝福を受けることができるでしょうか。

1. イエスの平安を受けること

わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。 ヨハネ14:27

2. 義の実を結ばせる種を蒔くこと

義の実を結ばせる種は、平和をつくる人によって平和のうちに蒔かれます。 ヤコブ 3:18

* God bless you!